

平成21年度産業保健調査研究報告書

福井県の女性労働者の ワーク・ライフバランスとメンタルヘルス に関する横断調査

独立行政法人 労働者健康福祉機構

福井産業保健推進センター

梅澤有美子

対象

①個人調査票:

女性労働者1,562名

平均年齢:39.4歳(sd=10.9)

18歳~75歳

- 23歳~55歳の人が89%

②事業場用調査票:

- 事業場103社

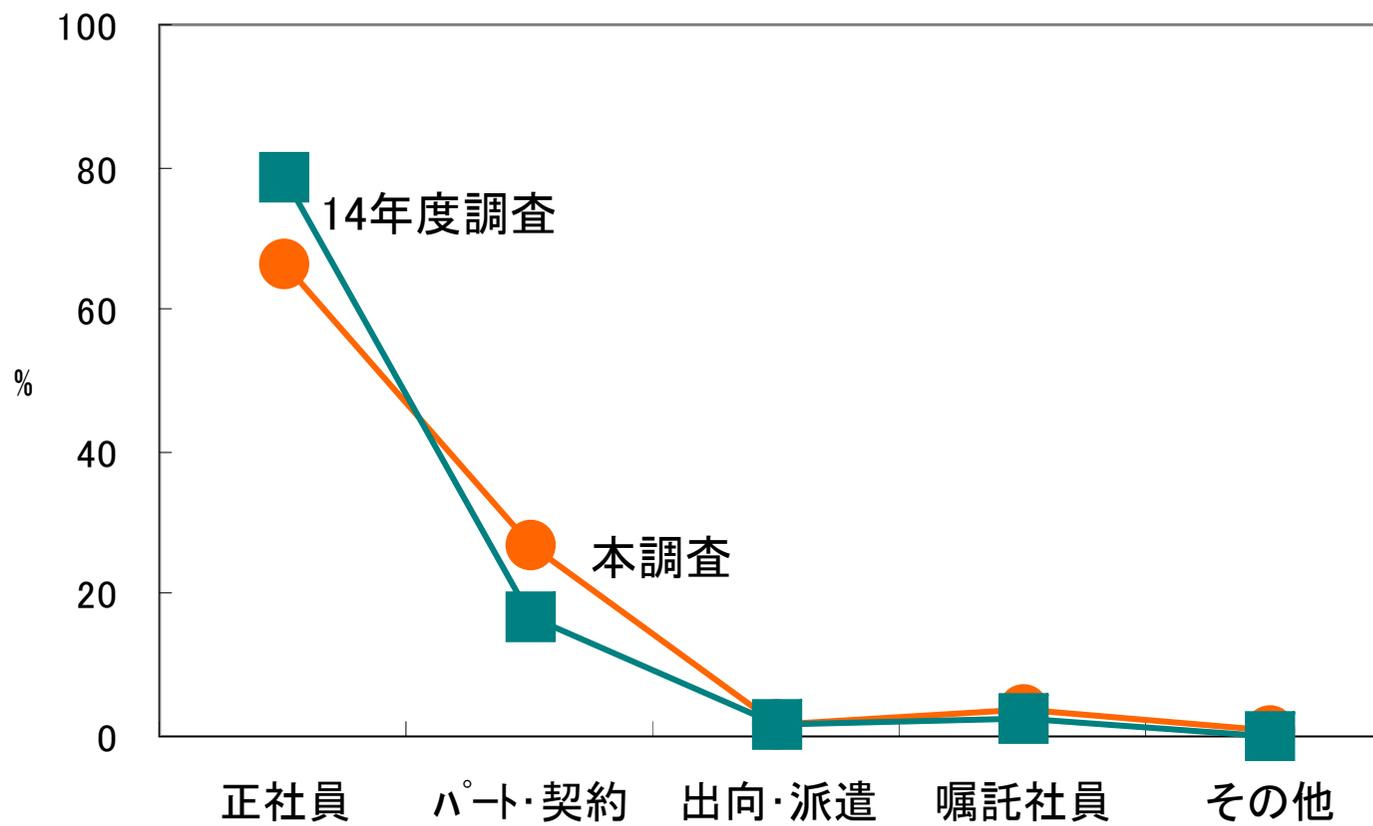


図1 雇用形態の比較(%)

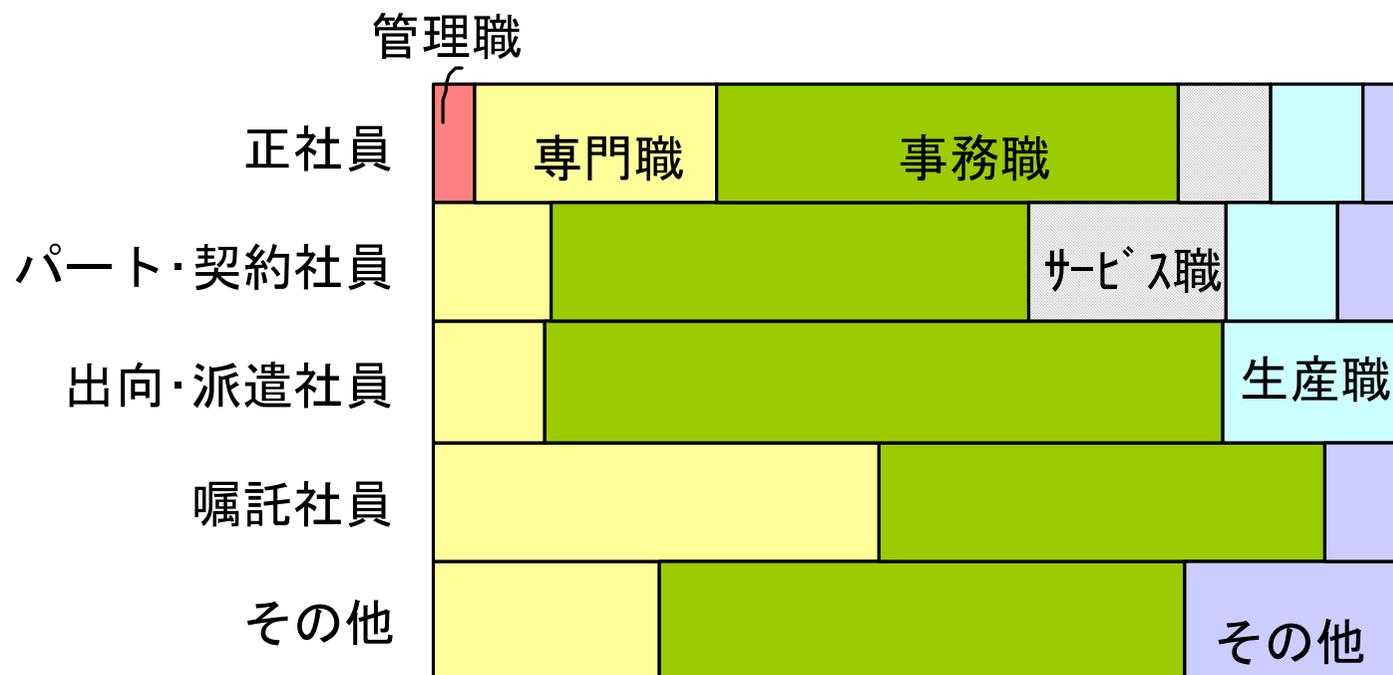


図2 雇用形態別の業務内容（％）

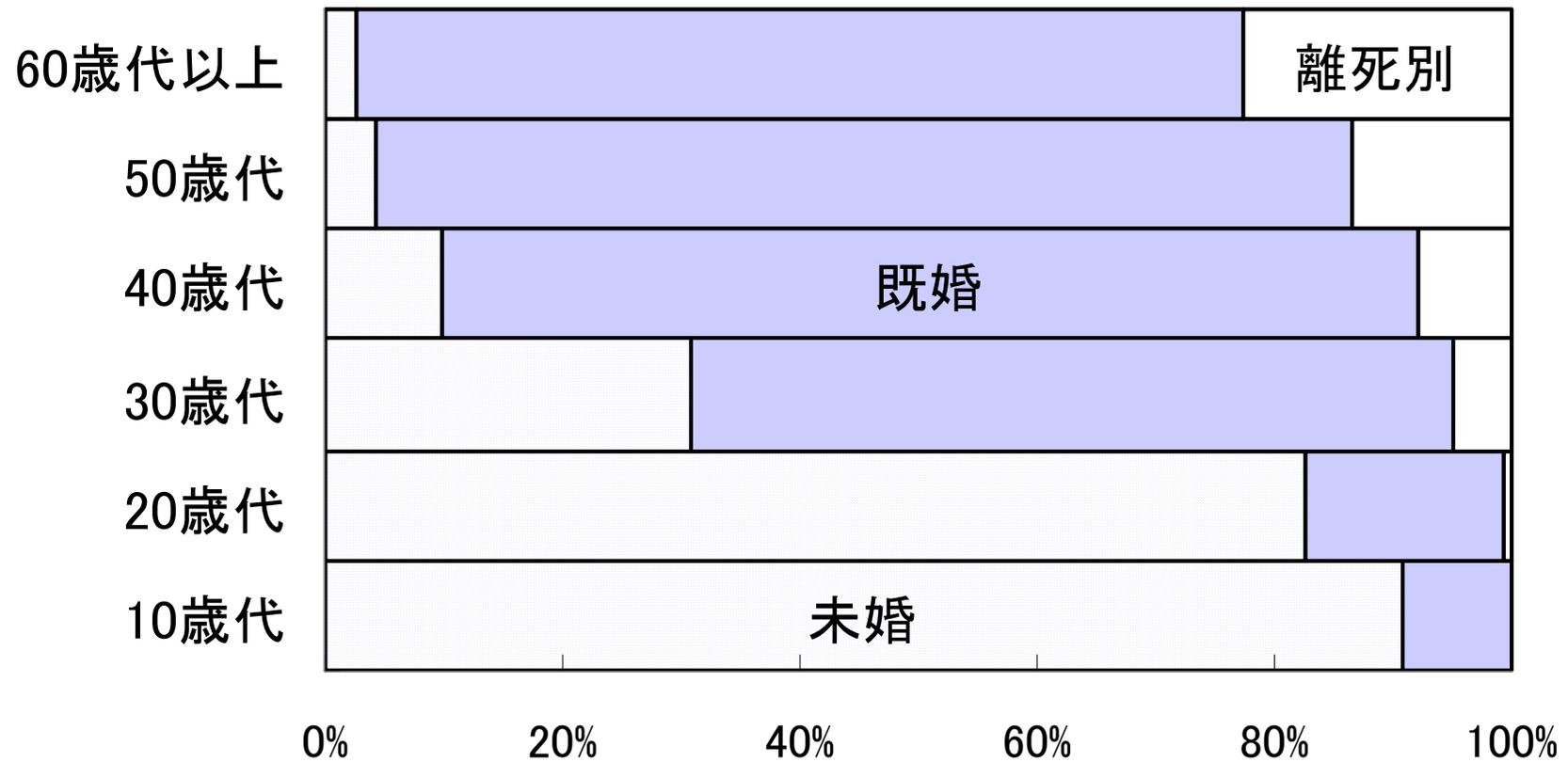


図3 年代別婚姻状況

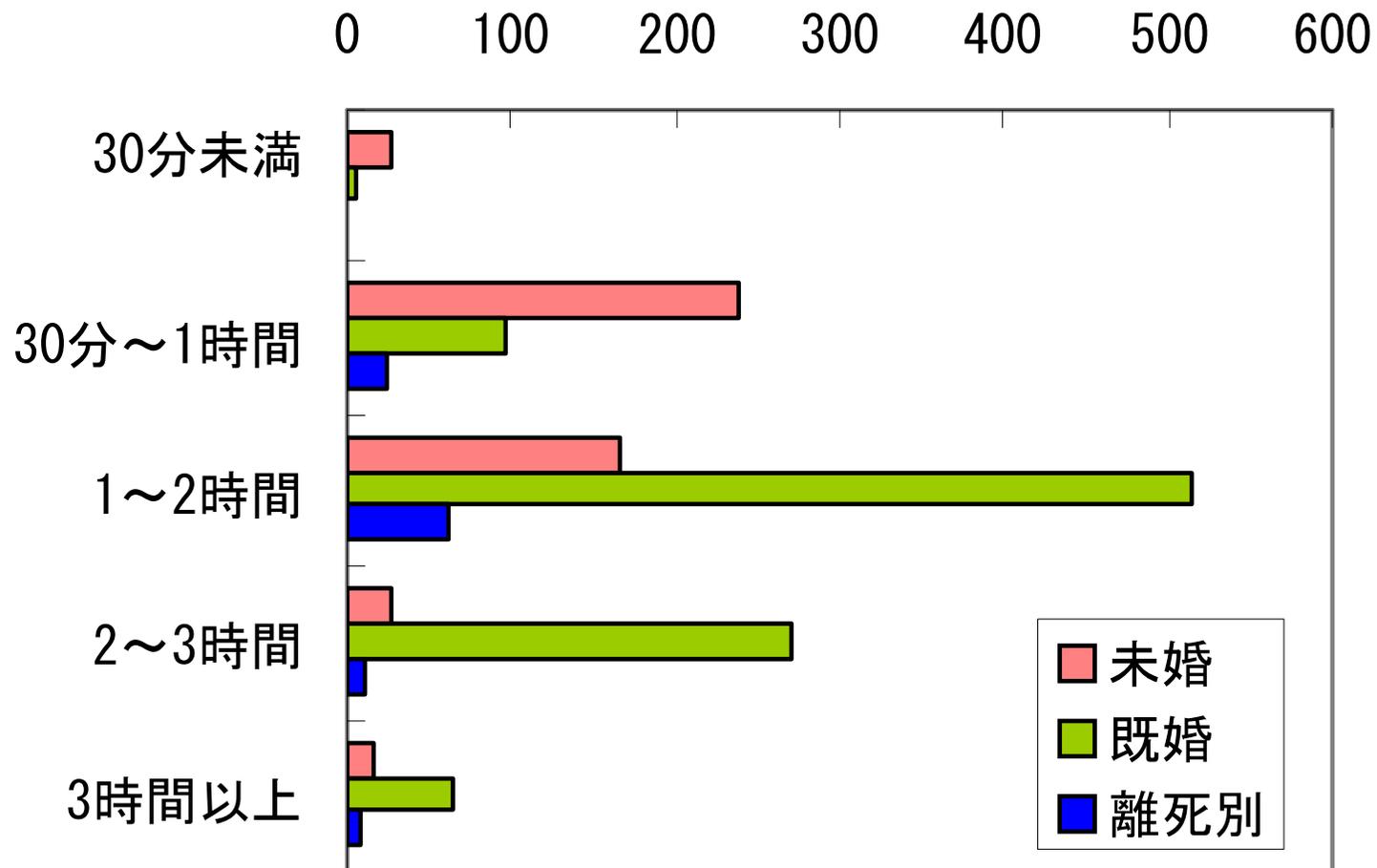


図4 朝家で過ごす時間 (人数)

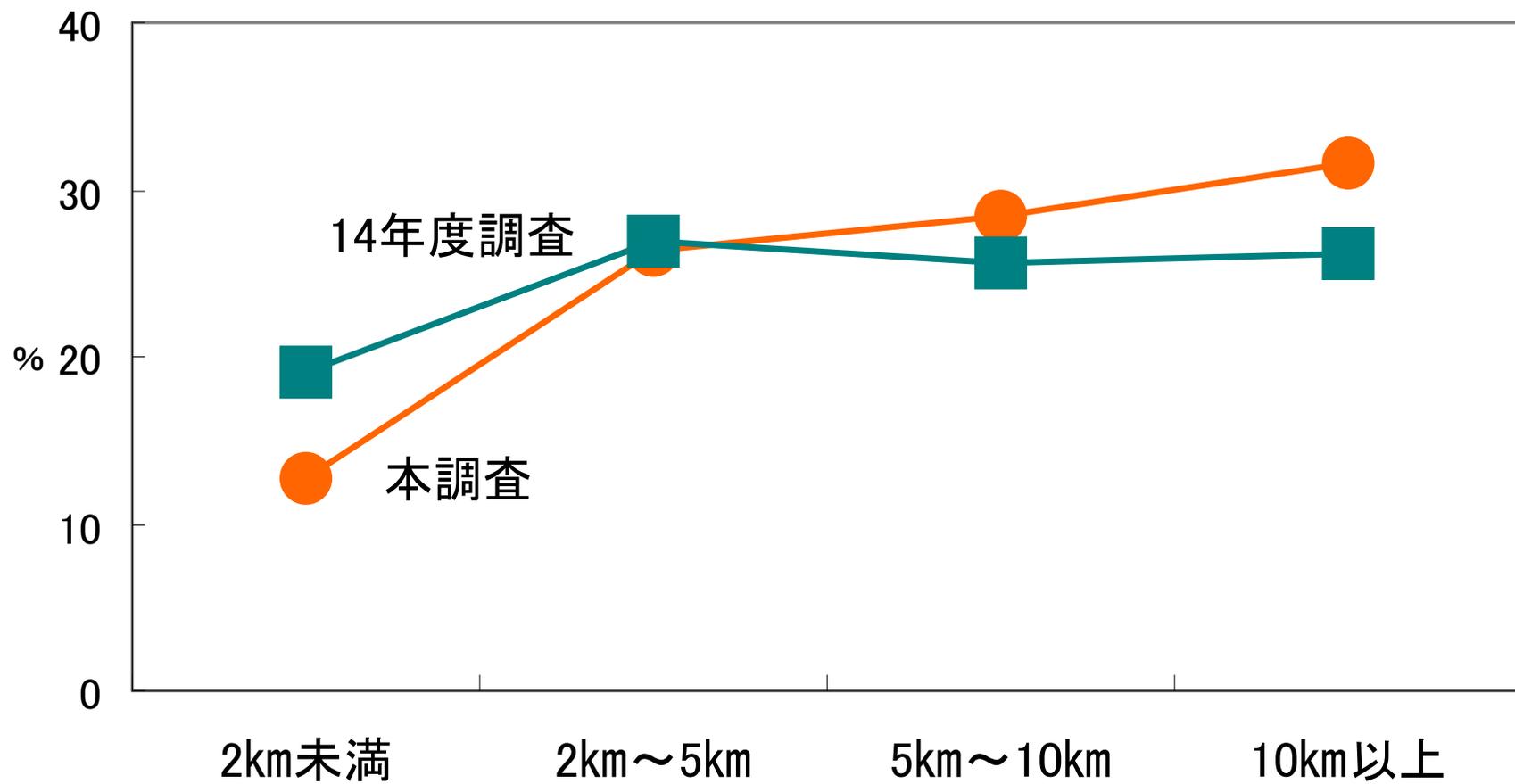


図5 通勤距離

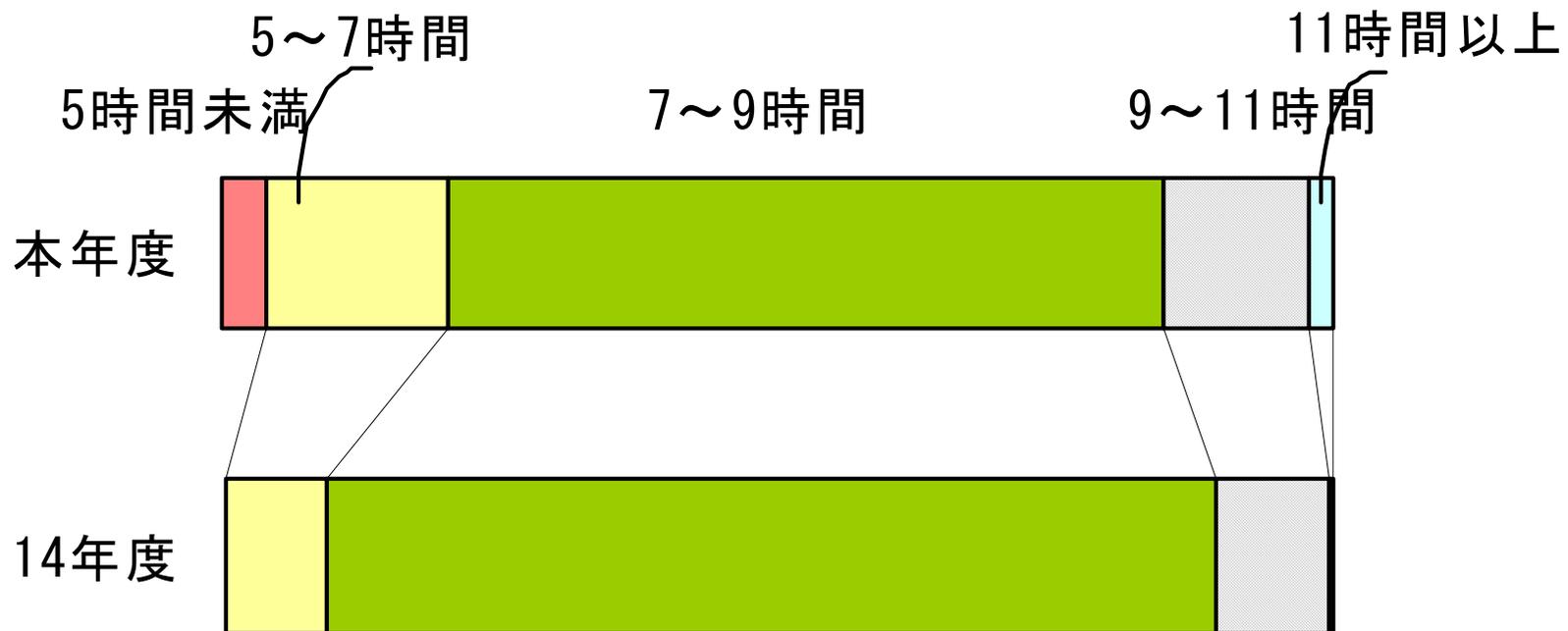


図6 勤務時間の比較 (%)

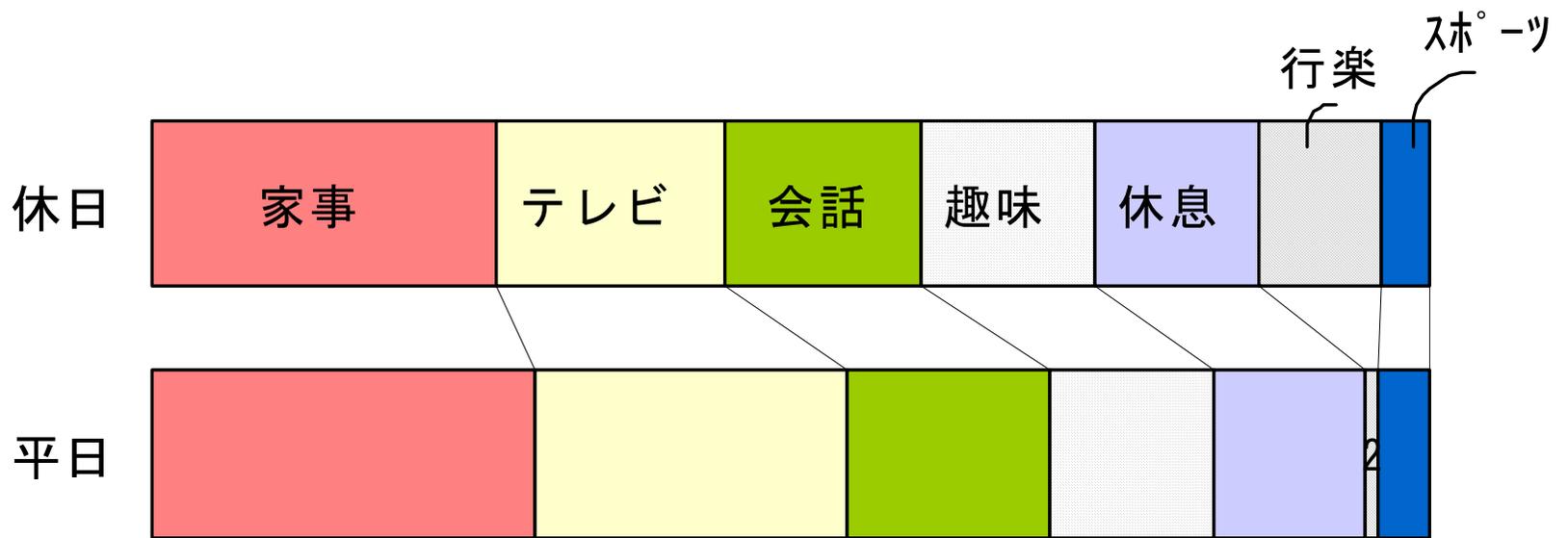


図7 休日と平日におこなっていることの比較 (%)

表1 ストレス解消法

順位	項目	本年度 (%)	14年度 (%)
1	ショッピング	56	57
2	休息や居眠り	45	42
3	ドライブ・旅行	30	23
4	雑談	28	44
5	テレビ・DVD等の視聴	25	31
6	外食	22	22
7	読書	14	9
8	飲酒	13	7
9	スポーツ	12	10
10	映画・演劇等の鑑賞	11	6

表2 普段の話し相手

順位		(%)	本年度	14年度
1	家族		75	—
2	仕事仲間（仕事上の知り合い）		72	60
3	学生時代の友人や幼なじみ		44	51
4	実家の親兄弟等を含む親戚		27	34
5	趣味等の仲間		20	22
6	子を通じての知人		12	17
7	近所の人		8	26
8	その他		5	11
9	配偶者を通じての知人		1	5

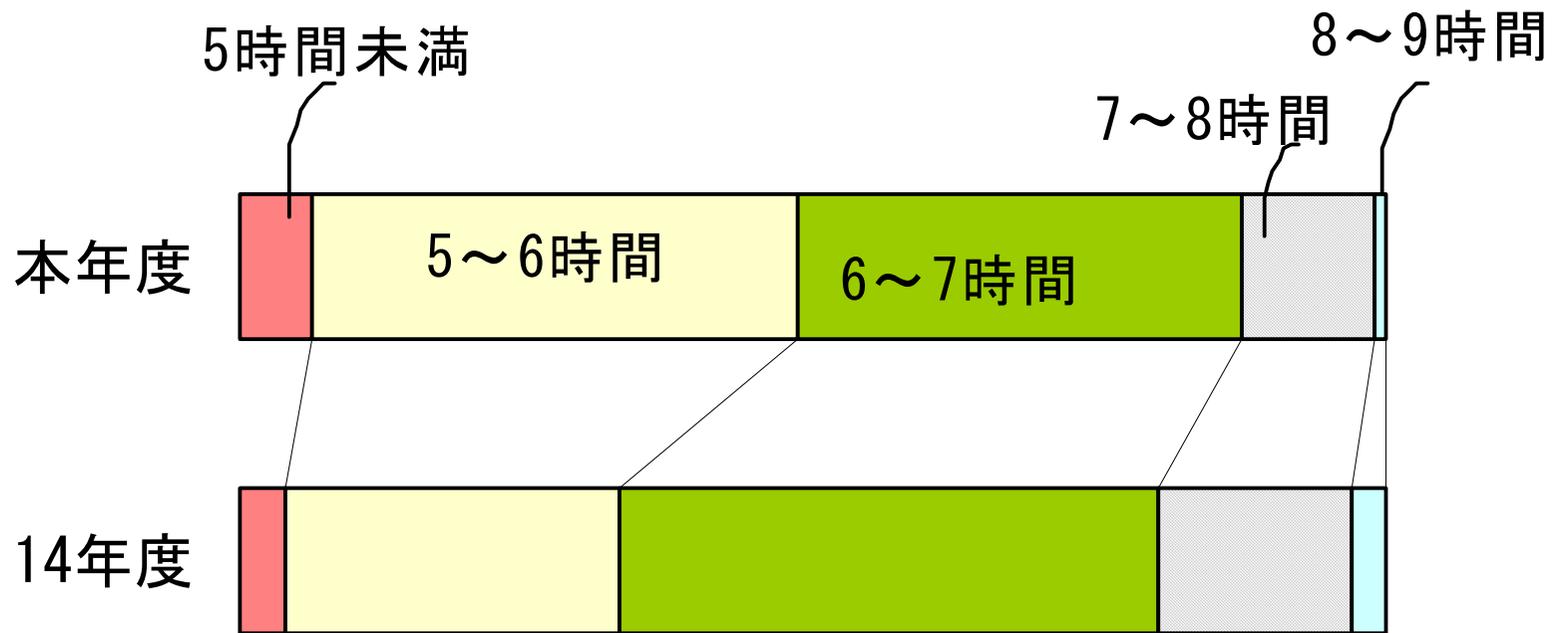


図8 睡眠時間の比較 (%)

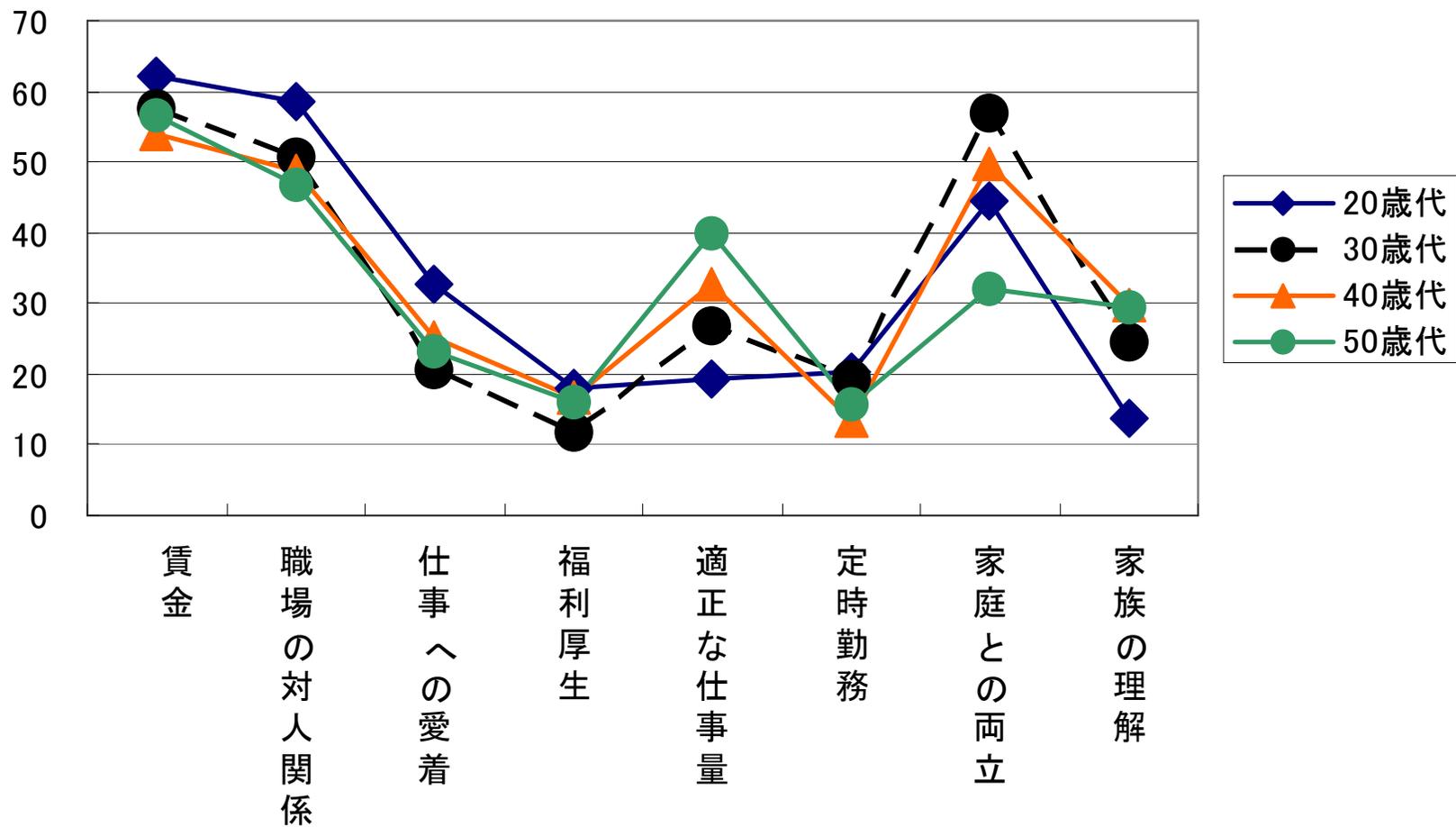


図9 働き続ける条件一年代別

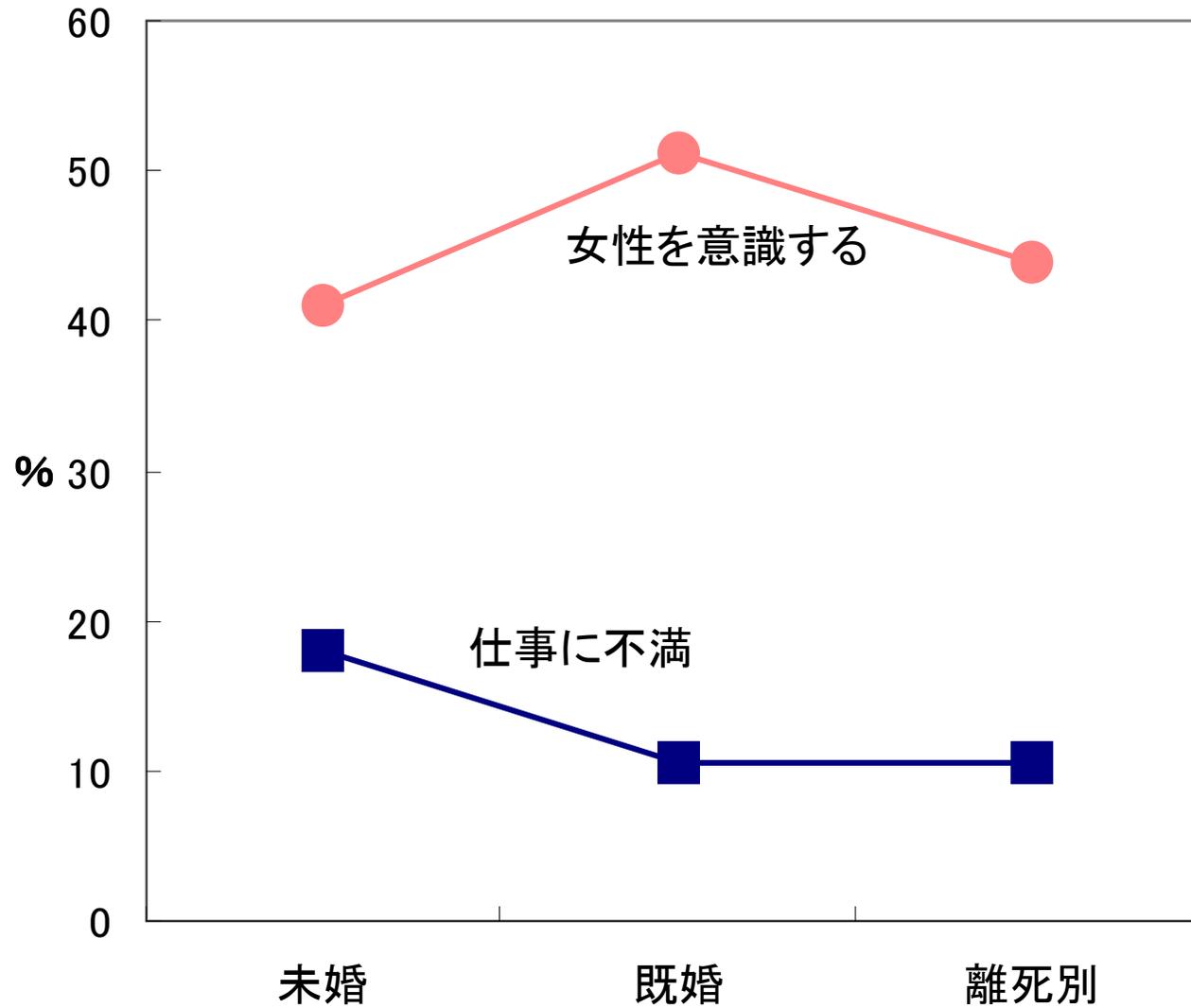


図10 仕事に対する意識:婚姻別

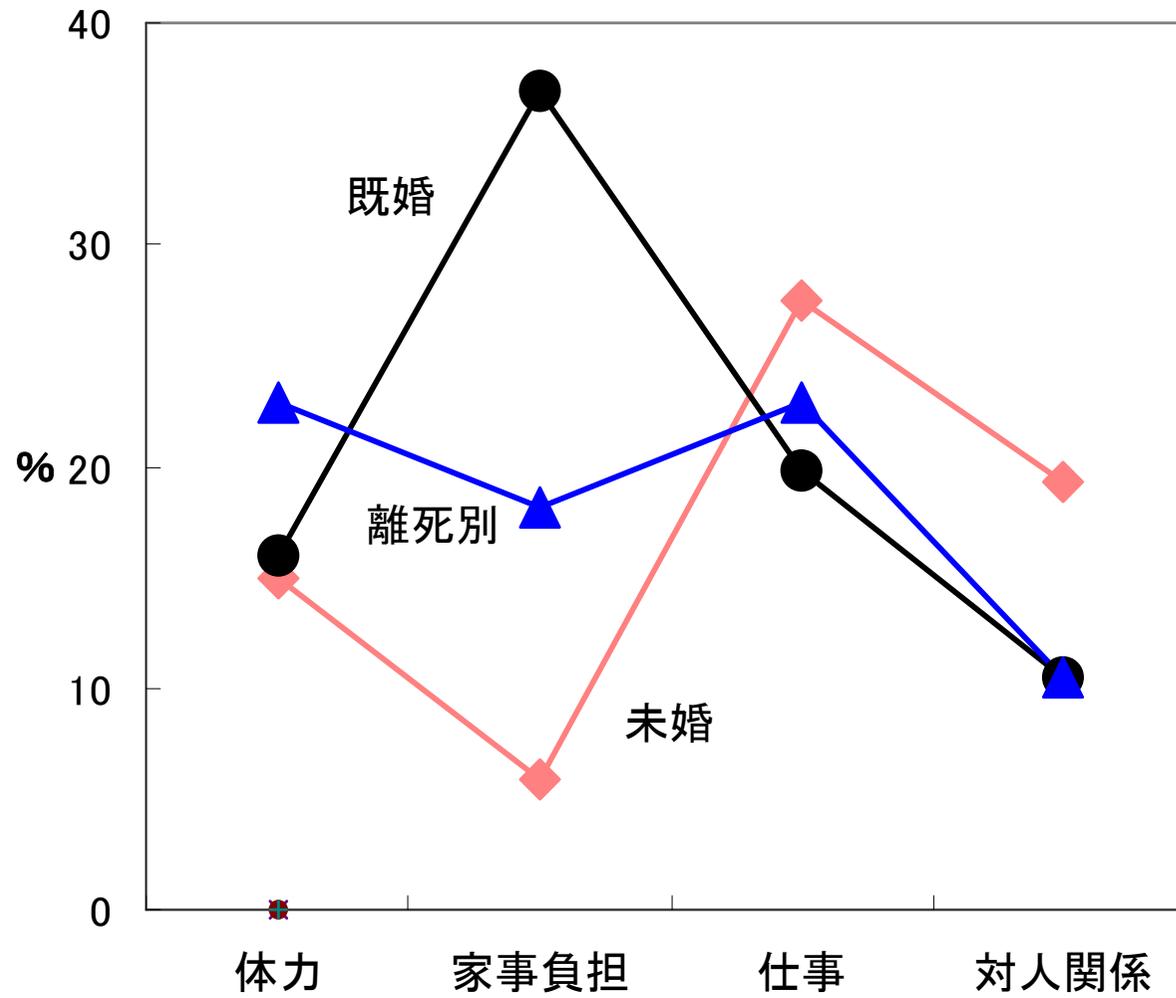


図11 女性を意識する点—婚姻別

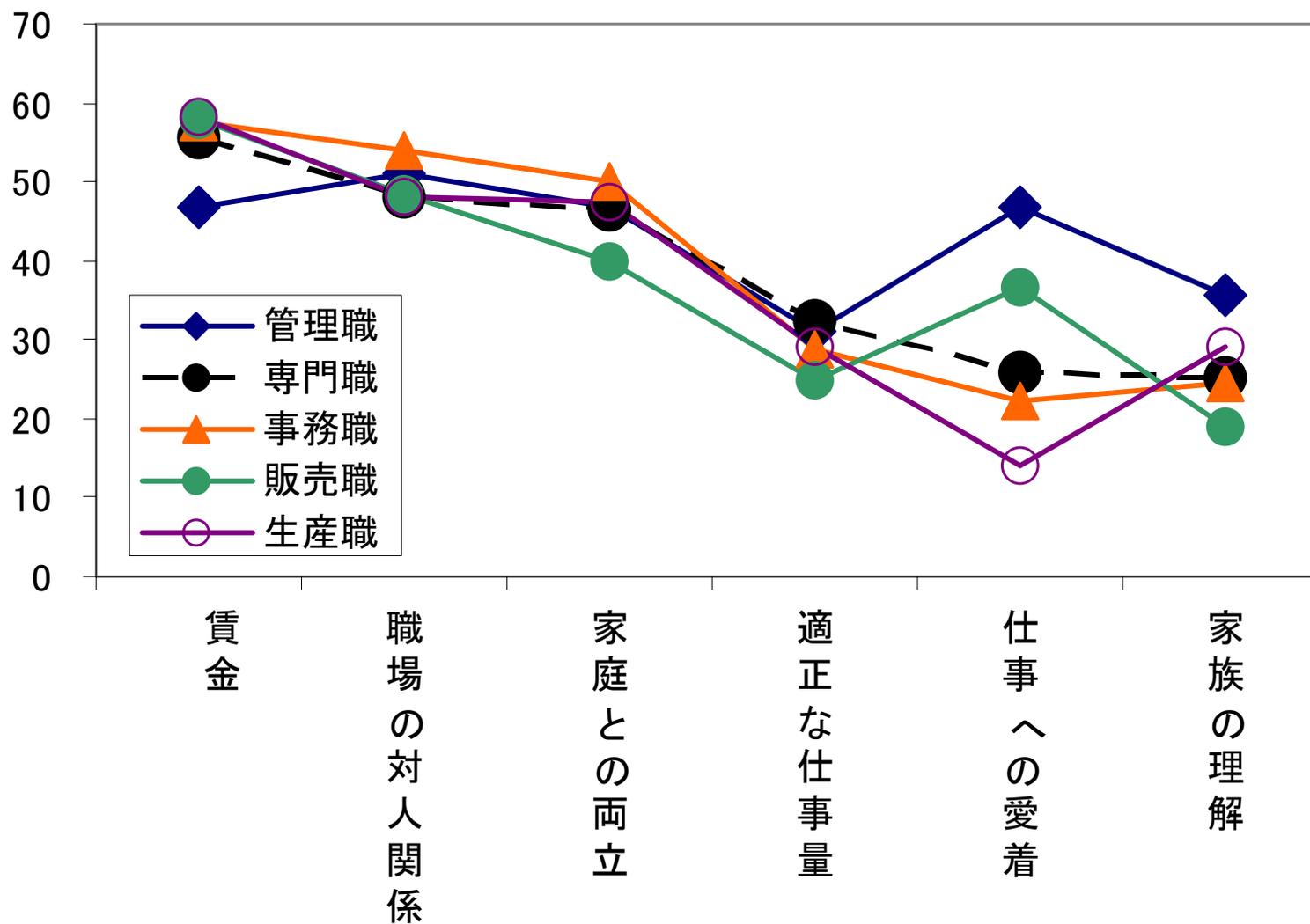


図12 働き続ける条件—業務内容別

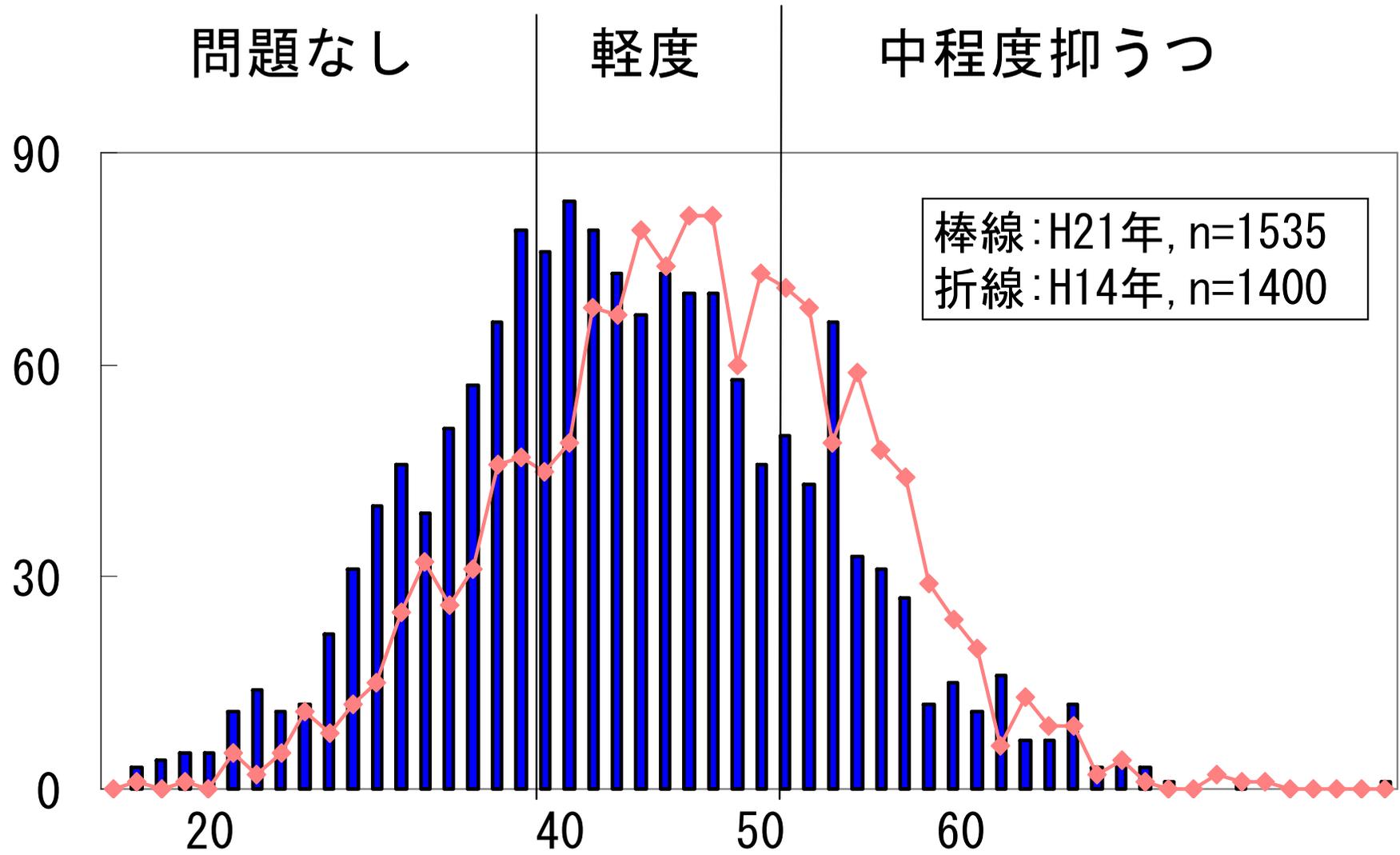


図13 ツングSDS得点分布

働く本県女性

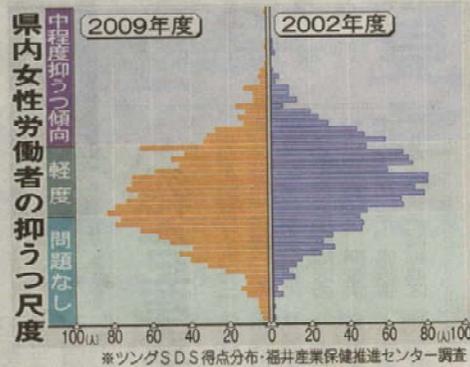
頑張り屋に

本県の働く女性はストレスをあまり自覚せず、頑張ってしまう。福井産業保健推進センターが女性労働者を対象に行った2009年度調査によると、前回調査の7年前に比べ、ストレスの度合いなどが判定する抑うつ傾向が改善。ストレス解消法にもやや変化が見られ、睡眠時間の減少傾向も明らかになった。

産業保健センター調査

調査は09年6～8月、梅澤有美子・福井大保健管理センター講師ら6人が調査票に回答を求め形式で実施。対象の109事業所、女性労働者4853人のうち103事業所、1573人から回答があり、02年度の前回調査と比較分析を行った。「疲れやすい」「眠れない」などストレスのサインを自覚する頻度を記入してもらい判定する抑うつ尺度では、「問題なし」は43%で前回調査に比べ17%増。「軽度の抑

ストレス自覚低下、睡眠減



02年度比 発散法は「飲酒」倍増

「中程度」が41%で10倍の56%。前回の番目にも多かったのに対し、今の方法に変化。そんな今減、「中程度」は16%と多かった「雑談」は16%減の28%。逆に「飲酒」が7%から倍近い13%に増えた。また「5時以上」が2%増の6%。調査に当たった梅澤が「ストレス解消法(複数)が7%から倍近い13%に増えた。中でも「ショッピング」睡眠時間は減少傾向。を挙げた女性が最も多 前回「平均6～7時間」を挙げた女性が増えたとした回答者が47%と最も増えた。結果からは、睡眠時間減少傾向も明らかになった。

を前って頑張りながらも改善傾向とはいえず、女性を弱音をはかなくなっが少なく、解消法では雑談が減少して飲酒は増えか」と考察。「メンタルヘルスの面で、頑張る女性が増えたと手放して喜べない部分があり、周囲はねぎらいの気持ちを持って接してあげて」と呼びかけている。

2010年4月8日
福井新聞

まとめ

14年度調査と比較して

- ・メンタルヘルス指標：自己記入式SDSは改善した
- ・「地位も責任も低い」→「賃金」「適正な仕事量」「職場の対人関係」「仕事への愛着」を吟味した働き方への変化が推測される
- ・実際の仕事の状況は厳しさが増加
- ・意気込みと現実のギャップが出る可能性が高い
- ・産業保健スタッフによる新しい対応が必要になる